

小規模企業景気動向調査

[2022年4月期調査]

～規制緩和により一部では好調も、コスト増による採算の悪化で足踏み状態の小規模企業景況～

2022年5月27日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2022年4月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…規制緩和により一部では好調も、コスト増による採算の悪化で足踏み状態の小規模企業景況…◇

4月期の産業全体の業況は、売上額DIが小幅に改善、資金繰りDIが横ばいで、採算・業況DIはわずかな悪化となった。一部業種では、まん延防止等重点措置が解除され、人の流れが戻る中迎えたGWが売上改善の追い風となった。しかし、全業種にわたり、長引く原油及び原材料高騰に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円安等の事業環境変化で、コストが大幅に増加しており、利益が圧迫されている。事業者は業況の改善を実感できない状況に追い込まれている。特に、建設業では幅広く影響が出ており、今後の動向に注意が必要である。

<製造業> ◇…原材料高騰やコストの増加の影響で、利益率の悪化に苦む製造業…◇

製造業は、売上・採算DIがわずかに改善、資金繰りDI、業況DIは小幅な悪化となった。食料品関連は、売上は引き続き回復基調も、小麦や油等の価格高騰により採算に苦しみ、業況は芳しくない。機械・金属業は、原材料高騰の影響が大きく、先月に続き採算が悪化しており、価格転嫁が十分にできていないとのコメントがあった。繊維関係は、売上の低迷に加え、原材料高騰やコストの増加が追い打ちをかけており、厳しい状況が続いている。

<建設業> ◇…資材不足による工期遅延、資材価格高騰による採算の悪化に苦む建設業…◇

建設業は、採算・業況DIが10ポイント超、売上額DIが大幅な悪化となった。採算・業況の悪化幅は昨年のウッドショック時を超え、深刻さがうかがえる。物によっては単価が倍になるという建築資材単価の上昇や資材不足による工期の遅れが採算を圧迫している。また、当初の見積金額から急激に経費上昇したことに伴う契約見直しの発生や、契約済みの工事について契約変更による価格転嫁ができず、苦慮しているとの声があった。

<小売業> ◇…相次ぐ値上げによる消費の冷え込みに苦しみ、悪化に転じた小売業…◇

小売業は、先月の回復から、売上額・採算DIが大幅、業況DIが小幅な悪化に転じた。食料品関連は、商品価格の値上げが相次いでいることから、消費者が安売り店へ流出したり、買い控えをしているとの声があった。耐久消費財関連は、引き続き半導体不足の中、新車・中古車ともに欠品や納期遅れが生じているのに加え、交換部品の値上がりで採算の悪化が見られるとのコメントがあった。衣料品関係は、人の流れが増え売上も回復しているという声がある一方、引き続き低迷しているとの声もあり、明暗が分かれた。

<サービス業> ◇…規制緩和により旅館関連は好調も、限定的な回復にとどまるサービス業…◇

サービス業は、売上額・業況DIが先月に続き10pt超の改善、採算・資金繰りDIも改善した。旅館関連は、まん延防止等重点措置の解除や規制なしのGWによって、小規模な旅行者の予約が大きく回復しているとの声があり、先月に引き続き全DIが10pt超回復した。洗濯関連は、引き続き、原油価格高騰の影響を強く受け、採算が悪化しているとの声が多く見られた。理美容関連は、売上は回復傾向にあるが、原材料高騰を受け採算は厳しく、一部には、価格転嫁を検討するものの、競合店が値上げしていないため、顧客離れを恐れ実行できていないとの声があった。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	▲ 23.4	▲ 22.2	1.2	▲ 21.3	▲ 21.1	0.2	▲ 15.0	▲ 20.3	▲ 5.3
採算	▲ 47.1	▲ 51.5	▲ 4.4	▲ 57.1	▲ 56.2	0.9	▲ 45.8	▲ 59.0	▲ 13.2
資金繰り	▲ 37.7	▲ 37.7	0.0	▲ 40.8	▲ 43.6	▲ 2.8	▲ 35.6	▲ 38.9	▲ 3.3
業況	▲ 39.7	▲ 42.1	▲ 2.4	▲ 43.8	▲ 47.4	▲ 3.6	▲ 34.2	▲ 46.0	▲ 11.8

業種	小売業			サービス業		
	3月	4月	前月比	3月	4月	前月比
売上額	▲ 23.7	▲ 28.7	▲ 5.0	▲ 33.7	▲ 18.8	14.9
採算	▲ 45.4	▲ 52.2	▲ 6.8	▲ 40.4	▲ 38.3	2.1
資金繰り	▲ 37.7	▲ 38.3	▲ 0.6	▲ 36.5	▲ 30.3	6.2
業況	▲ 40.4	▲ 44.9	▲ 4.5	▲ 40.2	▲ 30.2	10.0

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査

[2022年5月期調査]

～行動制限の緩和で売上好調も、コストの大幅増加等により、採算・資金繰りに苦む小規模企業景況～

2022年6月24日
全国商工会連合会

＜調査概要＞

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2022年5月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

＜産業全体＞ ◇…行動制限の緩和で売上好調も、コストの大幅増加等により、採算・資金繰りに苦む小規模企業景況…◇

5月期の産業全体の業況は、売上額DIが10pt超、業況DIが大幅、資金繰り・採算DIは小幅な改善となった。3年ぶりの行動制限のないGWなど経済活動の活発化を起爆剤とし、全業種で売上額DIが10pt超の改善となった。しかし、原油及び原材料高騰に加えて、ロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安等の影響が長期化の様相を呈し始め、コスト増大による採算の悪化が小規模企業を苦しめている。特に、製造業や建設業でのコスト増の影響が大きく、採算や資金繰りの悪化が見られる結果となった。

＜製造業＞ ◇…高騰し続ける原材料のコスト増の影響で、採算の悪化に苦む製造業…◇

製造業は、売上DIが10pt超改善するも、採算DIが悪化へと転じた。食料品関連は、売上の大幅回復が続いているものの、小麦や油等の価格高騰が止まらず、価格転嫁が追い付かないとのコメントがあった。また、機械・金属業関連は、売上DIが約20pt改善するも、直近1年間で最も採算が悪化した。経営指導員からは、原材料の価格高騰に加え、銅やニッケル等の原材料そのものの入手困難が続いているとの報告があった。繊維業関連も、売上は回復基調も、生地等の価格が高騰し採算悪化が進んでいる。

＜建設業＞ ◇…負のスパイラルの加速で、資金繰りに影響の表れ始めた建設業…◇

建設業は、売上・業況DIが10pt超改善するも、資金繰り・採算DIは引き続き低水準で推移している。公共事業・民間工事・災害復旧工事など需要は堅調も、ウッドショックの長期化や建築資材、半導体製品不足に加え、原油価格高騰や人手不足による生産性の低下など負のスパイラルが加速しているとのコメントが目立った。部材の不足や価格の高騰が工期の大幅な遅延を招いており、入金遅れから、資金繰りも影響がでてきているとの声も多い。

＜小売業＞ ◇…行動制限の緩和で売上好調も、消費行動の違いにより明暗を分けた小売業…◇

小売業は、売上額DIが10pt超の改善、その他のDIも改善に転じた。衣料品関連は、行動制限の緩和で人流が増加したこともあり、全指標で大きく改善が見られた。食料品関連は、GWによる売上増加に加え、6月の商品値上げ前の駆け込み需要等により、売上額DIが15pt超の大幅改善となった。一方、耐久消費財関連は、半導体不足による納期遅延が深刻化、さらに中古車価格やガソリン価格の高騰等により、消費者の買い控えの影響を大きく受け、資金繰りDIが悪化に転じるなど業種間で明暗が分かれた。

＜サービス業＞ ◇…行動制限の緩和で大幅改善も、業種や事業者間で改善幅に差が出ているサービス業…◇

サービス業は、全DIが3カ月連続で改善、5月の業況DIの改善は3カ月の中でも最大となった。旅館関連は、売上・業況DIが20pt超と、直近1年間で最大の改善幅となった。行動制限のないGWによって、国内需要が活況を取り戻し、旅館等がほぼ満室になっているなど、好転のコメントが多数あった。クリーニング関連は、衣替需要や冠婚葬祭需要等で全DIが10pt程度超の改善となったが、燃料高騰の影響で採算に苦しんでいるとの声があった。理美容業は、2月以降は概ね右肩上がり改善傾向を示すなか、コメントでは、主要顧客の年齢層等により好転と悪化の二極化がみられた。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲ 22.2	▲ 7.2	15.0	▲ 21.1	▲ 6.1	15.0	▲ 20.3	▲ 5.3	15.0
採算	▲ 51.5	▲ 49.0	2.5	▲ 56.2	▲ 59.6	▲ 3.4	▲ 59.0	▲ 56.9	2.1
資金繰り	▲ 37.7	▲ 33.6	4.1	▲ 43.6	▲ 40.2	3.4	▲ 38.9	▲ 39.3	▲ 0.4
業況	▲ 42.1	▲ 32.3	9.8	▲ 47.4	▲ 41.4	6.0	▲ 46.0	▲ 34.6	11.4

業種	小売業			サービス業		
	4月	5月	前月比	4月	5月	前月比
売上額	▲ 28.7	▲ 16.4	12.3	▲ 18.8	▲ 1.0	17.8
採算	▲ 52.2	▲ 50.0	2.2	▲ 38.3	▲ 29.4	8.9
資金繰り	▲ 38.3	▲ 35.1	3.2	▲ 30.3	▲ 20.1	10.2
業況	▲ 44.9	▲ 39.2	5.7	▲ 30.2	▲ 13.8	16.4

注) DI (景気動向指数) は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査

[2022年6月期調査]

～売上好調も、コスト増加分の価格転嫁に踏み切れず、採算・資金繰りに苦む小規模企業景況～

2022年7月28日
全国商工会連合会

<調査概要>

調査対象：全国約300商工会の経営指導員

調査時点：2022年6月末

調査方法：対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

<産業全体> ◇…売上好調も、コスト増加分の価格転嫁に踏み切れず、採算・資金繰りに苦む小規模企業景況…◇

6月期の産業全体の業況は、売上額DIが小幅、採算DIがわずかな改善、資金繰り・業況DIは小幅な悪化となった。5月期に引き続き、主要4業種すべてで売上DIが改善した一方、資金繰りDIは悪化となった。ロシアによるウクライナ侵攻、急激な円安等による原油及び原材料高騰に歯止めが効かず、コスト増から採算が悪化している中、顧客の買い控えを警戒し、価格転嫁に踏み切れず苦しんでいる。また、採算の悪化が資金繰りの悪化につながっているとのコメントも目立った。

<製造業> ◇…受注は好調も、価格転嫁が進まず、採算・資金繰りに苦む製造業…◇

製造業は、売上額DIが小幅に改善、資金繰り・業況DIが小幅な悪化となった。食料品関連は、催事・イベントの活発化により売上が増加し、5月期に続いてプラス水準となったが、小麦や油等の高騰が止まらず、価格転嫁が追い付かないとのコメントがあった。機械・金属業関連は、採算が引き続き低水準で推移する中、資金繰りもじわじわ悪化しており、経費増加分を価格転嫁できない下請企業の立場の弱さがあっているとの声があった。繊維業関連は売上DIが10pt超改善と受注は好調だが、原材料の入荷待ちで稼働率が低く、支出が先行し、資金繰りの悪化が見られる。

<建設業> ◇…価格高騰による採算の悪化や資材の入手難による工期延長で、資金繰りに苦む建設業…◇

建設業は、売上額DIが小幅に、業況DIがわずかに改善するも、資金繰り・採算DIは引き続き低水準で推移している。官公需の工事を中心に受注が堅調であるも、資材等の価格高騰が続く中、上昇分の価格転嫁が追い付かず、採算の悪化を招いている。また、建築資材が入手困難であることから、工期が延長し、人件費等のコストが増加している。加えて、工期延期で売上の入金が遅れ、資金繰りが悪化している事業者が増加しているとの声があった。

<小売業> ◇…売上好調を維持も、価格転嫁に苦慮する小売業…◇

小売業は、売上額・採算DIが改善するも、資金繰り・業況DIが悪化に転じた。衣料品関連は、売上DIが約10pt改善と好調も、顧客離れを恐れ、仕入価格上昇分を価格転嫁できずに、その他のDIは悪化となった。食料品関連は、売上額DIがプラス水準となるも、買い控えや顧客の流出を恐れ、価格転嫁に踏み込めずに資金繰りDIは直近1年間で最も悪化幅が大きく、水準も低い。耐久消費財関連は、自動車・エアコンなどの需要はあるものの、供給不足が慢性化しており、十分に対応できていない。

<サービス業> ◇…価格高騰により、採算・資金繰りが厳しく、回復基調から悪化に転じたサービス業…◇

サービス業は、5月の全DIの大幅改善から、引き続き売上DIは好調を維持するも、その他のDIは小幅な悪化となった。旅館関連は、大型連休以降客足が戻っているとの声があり、売上好調を維持しているが、採算・資金繰りは厳しくなっている。クリーニング関連は、燃料費や溶剤関係の値上げの影響を大きく受けているが、価格転嫁がなかなか困難であることから、業況・採算・資金繰りが大幅に悪化している。理美容業は、4ヶ月連続で売上DIが改善傾向を示し、原材料高騰の影響があるものの、全体的に安定してきているとのコメントがあった。

業種	産業全体			製造業			建設業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
売上額	▲ 7.2	▲ 3.6	3.6	▲ 6.1	▲ 3.5	2.6	▲ 5.3	▲ 1.7	3.6
採算	▲ 49.0	▲ 48.4	0.6	▲ 59.6	▲ 55.3	4.3	▲ 56.9	▲ 57.1	▲ 0.2
資金繰り	▲ 33.6	▲ 37.4	▲ 3.8	▲ 40.2	▲ 42.8	▲ 2.6	▲ 39.3	▲ 43.7	▲ 4.4
業況	▲ 32.3	▲ 34.3	▲ 2.0	▲ 41.4	▲ 42.4	▲ 1.0	▲ 34.6	▲ 34.0	0.6

業種	小売業			サービス業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
売上額	▲ 16.4	▲ 9.9	6.5	▲ 1.0	0.6	1.6
採算	▲ 50.0	▲ 48.7	1.3	▲ 29.4	▲ 32.4	▲ 3.0
資金繰り	▲ 35.1	▲ 40.6	▲ 5.5	▲ 20.1	▲ 22.6	▲ 2.5
業況	▲ 39.2	▲ 42.1	▲ 2.9	▲ 13.8	▲ 18.6	▲ 4.8

注) DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

全国商工会連合会 政策推進部 事業環境課

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル北館19F TEL:03-6268-0085 FAX:03-6268-0997 担当:元木

小規模企業景気動向調査 [2022年7月期調査]

～感染急拡大による需要低迷、コスト増の影響による採算・資金繰りに苦む小規模企業景況

＜産業全体＞ 感染急拡大による需要低迷、コスト増の影響による採算・資金繰りに苦む小規模企業景況

7月期の産業全体の業況は、売上額DIが大幅に悪化、採算・資金繰り・業況DIは小幅な悪化となった。コロナ第7波の急拡大により、5月期、6月期と持ち直しの動きが見られた売上DIが悪化に転じた。また、原油及び原材料高騰によるコスト負担に加え、急激な円安等により採算の悪化につながっているものとみられる。これらの需要の低迷や採算の悪化が、資金繰りにも影響を与え、借り換えやリスクで対応している、などのコメントが目立ち始めている。

	6月	7月	前月比
売上額	▲ 36	▲ 100	▲ 64
採 算	▲ 484	▲ 514	▲ 30
資金繰り	▲ 374	▲ 400	▲ 26
業 況	▲ 343	▲ 385	▲ 42

＜製 造 業＞ 一部で価格転嫁が進むも、限定的であり、採算・資金繰りに苦む製造業

製造業は、売上額DIが小幅に悪化、採算DIがわずかに改善、資金繰り・業況DIが小幅な改善となった。食料品関連は、原材料高騰により採算DIが低水準で推移しているが、価格や容量に転嫁する対策が進んでいる、とのコメントがあった。繊維関連は、売上DIが10pt超と大幅に悪化した。採算・資金繰り・業況DIは小幅な改善が見られた。機械・金属関連は、半導体関係が全体を牽引し、全DIで改善がみられた。一方、労働力不足から受注制限する、などのコメントがあった。

	6月	7月	前月比
売上額	▲ 35	▲ 56	▲ 21
採 算	▲ 553	▲ 548	05
資金繰り	▲ 428	▲ 406	22
業 況	▲ 424	▲ 408	16

＜建 設 業＞ 資材不足による着工延期が、売上に影響を及ぼし始めた建設業

建設業は、売上額・業況DIが大幅に悪化、資金繰り・採算・業況DIは全産業において最も低水準で推移している。官公需、民間工事の受注が堅調である一方、建築資材の入荷遅れが継続しているため、着工できず売上に繋がらない。価格転嫁対策が追い付かないことによる採算悪化、工期遅延による資金繰り悪化も深刻である。資材入荷後に短期間で労働力を集中させる時期が発生し、職人の人手不足が課題である、とのコメントがあった。

	6月	7月	前月比
売上額	▲ 1.7	▲ 102	▲ 85
採 算	▲ 57.1	▲ 602	▲ 31
資金繰り	▲ 43.7	▲ 486	▲ 49
業 況	▲ 340	▲ 421	▲ 81

＜小売業＞ 商品の値上げ、感染症の拡大、猛暑など、業種ごとに明暗を分けた小売業

小売業は、売上額・採算DIが小幅に悪化し、資金繰りDIがわずかに改善、業況DIが小幅に改善した。食料品関連は、売上額DIが悪化に転じた。商品の値上げに対し、買い控えの傾向がみられる、とのコメントが目立った。衣料品関連は、売上DIが悪化に転じた。コロナによる外出自粛から来店客が減少した、とのコメントがあった。一方、耐久消費財関連は、売上DIが大幅に改善し、猛暑によるエアコンの需要が大きく伸びた、とのコメントが見て取れた。

	6月	7月	前月比
売上額	▲ 9.9	▲ 120	▲ 21
採 算	▲ 48.7	▲ 503	▲ 1.6
資金繰り	▲ 406	▲ 400	06
業 況	▲ 421	▲ 406	15

＜サービス業＞ 感染症の急拡大により、回復基調から一転、大幅な業況悪化に苦むサービス業

サービス業は、売上・業況DIが10pt超の大幅悪化、採算・資金繰りDIが大幅に悪化した。旅館関連は、5月期、6月期と、売上DIの大幅な改善がみられたが、7月期は20pt超の急激な悪化となり、全業種の中で最大の悪化幅を記録した。クリーニング関連も、外出控えから、売上DIが10pt超の大幅悪化となった。理・美容は、売上DIは小幅の悪化にとどまるものの、エステ関連では、売上の大幅な減少で廃業した、とのコメントがあり、一部の業種への影響が大きかった。

	6月	7月	前月比
売上額	06	▲ 123	▲ 129
採 算	▲ 324	▲ 402	▲ 78
資金繰り	▲ 226	▲ 308	▲ 82
業 況	▲ 186	▲ 305	▲ 119

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2022年7月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2022年8月期調査]

～業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦む小規模企業景況～

＜産業全体＞ 業種で異なる需要格差、慢性的なコスト増による採算悪化に苦む小規模企業景況

8月期の産業全体の業況は、コロナ第7波の急拡大により売上額 DI が2期連続で小幅に悪化、採算・資金繰り・業況 DI が小幅な改善となった。一方で、業種によって売上額 DI の改善と悪化がみられ、格差が生じている。原材料の仕入れごとに価格が変動し、受注の都度、売上原価の再計算を行う事務作業の時間が増加、とのコメントも目立ち、少しずつ間接部門にも原材料価格高騰の影響が出始めている。一段と進行する円安等による原油・原材料の高騰で、産業全体の採算は低水準で推移し、厳しい経営環境・経営状況が続いている。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲100	▲110	▲10
採 算	▲51.4	▲47.9	3.5
資金繰り	▲40.0	▲37.1	2.9
業 況	▲38.5	▲34.6	3.9

＜製 造 業＞ 一部で価格転嫁が進み好調であるも、慢性的な採算悪化に苦む製造業

製造業は、売上額・資金繰り DI が小幅に悪化、採算 DI がわずかに悪化、業況 DI がわずかに改善となった。食料品関連は、原材料高騰により採算 DI が低水準で推移しているが、行動制限のない盆休みで稼働率が上がった、とのコメントがあった。繊維関連は、円安による輸入原材料高騰の影響が大きく、採算 DI が直近 1 年間で、最大の悪化幅を示した。機械・金属関連は、3期連続で採算 DI が改善。価格転嫁が進んでいる、とのコメントがあった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲ 56	▲ 82	▲ 26
採 算	▲ 54.8	▲ 55.4	▲ 0.6
資金繰り	▲ 40.6	▲ 43.2	▲ 2.6
業 況	▲ 40.8	▲ 40.7	0.1

＜建 設 業＞ 災害関連等の需要増による業況改善に転じるが、先行き不透明感の残る建設業

建設業は、売上額・採算 DI が小幅に改善、資金繰り・業況 DI が大幅な改善に転じた。先月に引き続き、堅調な官公需や民間工事の受注に加え、8月に発生した大雨による災害復旧需要の増加が顕著に見られた。一方で、価格転嫁対策が追い付かないことによる採算悪化、人手不足による納期遅れが発生するなど、引き続き深刻な状況。材料が高騰し続け正確な見積もりができない、売上は増えるが利益が増えないとのコメントが目立った。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲ 102	▲ 82	20
採 算	▲ 602	▲ 564	38
資金繰り	▲ 486	▲ 431	55
業 況	▲ 421	▲ 356	65

＜小 売 業＞ 商品の値上げ、感染症の急拡大等による、売上の悪化に苦む小売業

小売業は、売上 DI が大幅に悪化、採算 DI がわずかに改善、資金繰り DI が小幅に改善、業況 DI が小幅に悪化した。食料品関連は売上額 DI が大幅に悪化。値上げによる顧客の買い控えが顕著、とのコメントがあった。衣料品関連は 10pt 超の大幅悪化。売上の減少する時期に、コロナによる来店客減少の影響が重なった。耐久消費財関連は、エアコン特需が落ち着き、売上 DI が大幅に悪化。半導体不足による供給不足も大きく影を落とす結果となった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲120	▲19.7	▲7.7
採 算	▲50.3	▲49.9	0.4
資金繰り	▲40.0	▲38.9	1.1
業 況	▲40.6	▲42.4	▲1.8

＜サービス業＞ 行動制限のない盆休みで活況を取り戻すも、感染急拡大の影響に苦むサービス業

サービス業は、売上 DI が小幅に改善、採算・資金繰り・業況 DI が 10pt 超と大幅に改善した。旅館関連は、先月の大幅悪化から一転、全 DI で 10pt 超の大幅改善。行動制限のない盆休みにより、活況を取り戻した結果となった。クリーニング関連は、原油高騰による採算の悪化と改善を繰り返しており、安定しない。理・美容は、全 DI で改善傾向が続き、安定している。一方、事業者本人がコロナに感染し休業を余儀なくされる、とのコメントがあった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	▲123	▲81	42
採 算	▲402	▲300	102
資金繰り	▲308	▲230	78
業 況	▲305	▲194	11.1

調査概要

・調査対象:全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点:2022 年8月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2022年9月期調査]**～コロナ第7波の収束で売上増加も、低採算から脱却できずにいる小規模企業景況～****＜産業全体＞ コロナ第7波収束で売上増加も、低採算から脱却できずにいる小規模企業景況**

9月期の産業全体の業況は、コロナ第7波の収束により売上額 DI が大幅に改善し、採算・資金繰り・業況 DI が小幅な改善となった。全業種で売上額 DI の改善がみられるものの、採算 DI は低水準で推移し続けている。急激な円安によるコスト高に対し、価格転嫁が追いついていない、とのコメントもある。行動規制の緩和が続き、好転の兆しが見えつつも、未だ厳しい経営環境・経営状況が続いている。

DI	8月	9月	前月比
売上額	▲11.0	▲4.0	7.0
採 算	▲47.9	▲46.0	1.9
資金繰り	▲37.1	▲34.9	2.2
業 況	▲34.6	▲30.5	4.1

＜製 造 業＞ 売上好調も、急激に進む円安で収支のバランスが崩れ、資金繰り計画に苦しむ製造業

製造業は、売上額・業況 DI が小幅に改善、採算 DI がわずかに悪化、資金繰り DI が小幅に悪化した。食料品関連は、3期連続で売上額 DI が改善、10月の値上げに向けて駆け込み需要があった、とのコメントが目立つ。繊維関連は、冬物衣料の需要増加及び価格転嫁が進んだことで全 DI が改善した。機械・金属関連は、半導体事業が全体を牽引。その一方で、急激に進む円安等の影響で、資金繰り DI がここ1年で最大の悪化を示した。

DI	8月	9月	前月比
売上額	▲8.2	▲3.7	4.5
採 算	▲55.4	▲55.6	▲0.2
資金繰り	▲43.2	▲46.0	▲2.8
業 況	▲40.7	▲37.5	3.2

＜建 設 業＞ 災害復旧需要により全 DI 大幅改善も、材料費の高騰や人手不足から不安が残る建設業

建設業は、全 DI が2期連続で改善。他業種と比較して、唯一の大幅改善となった。好調が続く官公需・民間工事や、8月に発生した大雨による災害復旧に加え、新たに9月の台風被害の復旧需要が追い風となった。また、以前よりも原材料の納品が早くなったため、工期遅延が改善されている、とのコメントがあった。一方で、前月同様、原材料・燃料費の高騰や人手不足が続いており、安定しない、などのコメントがみられた。

DI	8月	9月	前月比
売上額	▲8.2	0.7	8.9
採 算	▲56.4	▲48.1	8.3
資金繰り	▲43.1	▲34.4	8.7
業 況	▲35.6	▲28.3	7.3

＜小 売 業＞ コロナ第7波の収束で売上増も、採算性悪化に歯止めのかからない小売業

小売業は、売上額 DI が大幅に改善、資金繰り・業況 DI が小幅に改善する一方で、採算 DI がわずかに悪化した。食料品関連は売上額 DI が大幅に改善する一方で、採算 DI に関しては4期連続の悪化。買い控えを恐れて価格転嫁に踏み切れない、という声が多くみられた。衣料品関連は、売上額 DI が大幅改善。コロナ第7波の収束と、秋冬物の需要増から客足が戻り始めた、とのコメントがあった。耐久消費財関連は、売上額 DI が大幅に改善。車の需要はあるが、新車生産が追いつかず、中古車価格が高騰し続けている、というコメントが目立つ。

DI	8月	9月	前月比
売上額	▲19.7	▲10.7	9.0
採 算	▲49.9	▲50.6	▲0.7
資金繰り	▲38.9	▲37.7	1.2
業 況	▲42.4	▲38.8	3.6

＜サービス業＞ 行動制限緩和で売上増加も、原材料高等で低水準が続くサービス業

サービス業は、売上額 DI が大幅に改善、採算 DI がわずかに改善、資金繰り・業況 DI が小幅に改善した。旅館関連は、前月から引き続き売上・業況 DI が大幅改善となり、行動制限緩和による旅行客増加が顕著にみられた。クリーニング関連は、全 DI で改善傾向がみられたものの、依然として原油・原材料高の影響を最も受けており採算性が悪い。理・美容は、売上額 DI が小幅に改善し、安定してきている。その一方で採算 DI が大幅に悪化した。水道光熱費等の経費上昇で利益を圧迫している、とのコメントがあった。

DI	8月	9月	前月比
売上額	▲8.1	▲2.3	5.8
採 算	▲30.0	▲29.9	0.1
資金繰り	▲23.0	▲21.6	1.4
業 況	▲19.4	▲17.4	2.0

調査概要

・調査対象: 全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点: 2022 年9月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2022年10月期調査]**～深刻な原油・原材料費や物価等の高騰による、採算・資金繰り悪化に苦む小規模企業景況～****＜産業全体＞ 深刻な原油・原材料費や物価等の高騰による、採算・資金繰り悪化に苦む小規模企業景況**

10月期の産業全体の業況は、前期と比べ売上額DIがわずかに改善したものの、採算・業況DIが横ばいで推移し、資金繰りがわずかに悪化に転じた。新型コロナウイルスの水際対策の大幅緩和や全国旅行支援等により、観光業を中心にサービス業は売上DIが大幅に改善。一方、全業種で価格転嫁が進まず、コスト高で利益が見込めない、とのコメントが目立つ。また一部の業種で資金繰りにも影響が出始めている。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲40	▲22	1.8
採算	▲460	▲462	▲02
資金繰り	▲34.9	▲35.6	▲0.7
業況	▲30.5	▲30.1	0.4

＜製造業＞ 改善傾向にあるものの、原材料費高騰等により資金繰りに影響が出始めた製造業

製造業は、全DIが改善した。食料品関連は、採算DIが低水準で推移し続けており、売上増加も原材料費の高騰で利益が残らない、とのコメントが多い。繊維関連は、冬物衣料の需要と、旅行等による外出機会の増加により、売上額・採算DIともに大幅に改善した。機械・金属関連は、2期連続で資金繰りが悪化。受注はあるが、資材等の入荷遅れが売上の停滞を招き、原材料費高騰で採算が悪化し、資金繰りに悪影響が出ている。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲3.7	▲1.1	2.6
採算	▲55.6	▲54.0	1.6
資金繰り	▲46.0	▲42.9	3.1
業況	▲37.5	▲34.8	2.7

＜建設業＞ 深刻な人手不足による売上の停滞や資材高騰により、採算のとれない建設業

建設業は、採算DIが大幅に悪化、売上額・資金繰り・業況DIが小幅に悪化し、全DIが悪化に転じた。歯止めのきかない建設資材の高騰に価格転嫁が追いつかず、採算が悪化。慢性的な人手不足から思うように業績が伸びない、というコメントが多かった。一方、公共事業や災害復旧工事、冬場前の工事需要増加が業界を牽引し、以前に比べ資材の入荷や、納期遅れ等は改善されてきたというコメントも見られた。

DI	9月	10月	前月比
売上額	0.7	▲1.4	▲2.1
採算	▲48.1	▲53.9	▲5.8
資金繰り	▲34.4	▲37.8	▲3.4
業況	▲28.3	▲33.2	▲4.9

＜小売業＞ 仕入値の高騰と消費者の購買意欲の鈍化から、資金繰りに苦慮する小売業

小売業は、売上額・資金繰りDIが小幅に悪化し、採算・業況DIは横ばいで推移。衣料品関連は、売上額DIがわずかに悪化した。昨年度同月と比較すると2桁pt超改善。食料品関連は採算DIが低水準で推移。特に資金繰りDIが直近1年間で最低の水準となった。売上は安定してきたが採算が低水準で停滞し、資金繰りにも影響を及ぼし始めた。耐久消費財関連は、資金繰り・採算DIが大幅に悪化し、直近1年間で最も悪化。物価高による消費の冷え込みや、半導体不足からの納期長期化と課題が多い。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲10.7	▲12.4	▲1.7
採算	▲50.6	▲50.8	▲0.2
資金繰り	▲37.7	▲40.3	▲2.6
業況	▲38.8	▲38.7	0.1

＜サービス業＞ 観光客と外出需要の増加から、3期連続で改善が続くサービス業

サービス業は、全DIが改善し、特に売上額DIが大幅に改善した。旅館関連は、全DIが大幅改善、売上額DIは20pt近く上昇。訪日客の増加や全国旅行支援の効果が顕著に表れた。クリーニング関連は、売上額DIが大幅に改善も、3期連続で改善していた資金繰りDIが悪化に転じた。エネルギー価格高騰による固定費の上昇が資金繰りに影響を及ぼし始めている。理・美容は、売上額DIがわずかに改善するが、資金繰りDIが小幅に悪化。来客数がコロナ前水準まで戻らず、諸経費の高騰など悩みがつかない。

DI	9月	10月	前月比
売上額	▲2.3	6.0	8.3
採算	▲29.9	▲26.2	3.7
資金繰り	▲21.6	▲21.4	0.2
業況	▲17.4	▲13.7	3.7

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2022年10月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2022年11月期調査]**～売上額は増加するも、コスト高から採算・資金繰りが低水準で推移する小規模企業景況～****＜産業全体＞ 売上額は増加するも、コスト高から採算・資金繰りが低水準で推移する小規模企業景況**

11月期の産業全体の業況は、前期と比べ売上額・採算・資金繰り DI がわずかに改善したが、業況 DI は若干の悪化に転じた。前月に続き人流の回復傾向を受け、売上額 DI が改善した業種も多かった。その一方で、コスト高の問題は価格転嫁が進んでおらず解決の目途が立っていない。資金繰りがうまくいかず、廃業を考えているとのコメントなど、景気回復の兆しが見えないことを不安に思うコメントが目立った。

DI	10月	11月	前月比
売上額	▲ 22	▲ 07	1.5
採算	▲ 462	▲ 452	1.0
資金繰り	▲ 356	▲ 350	0.6
業況	▲ 30.1	▲ 30.8	▲ 0.7

＜製 造 業＞ 売上増加で、明るい兆しが見えるも、採算性の悪化から抜け出せない製造業

製造業は、直近1年間で初めて売上額 DI がプラスに転じ、採算・資金繰り DI が小幅に改善した。食料品関連は、年末のイベント需要が重なり、売上額 DI が5期連続で改善している。繊維関連は、採算・資金繰り DI が大幅に改善した。旅館関係の取引先をもつ事業者が好調である、とのコメントがあった。機械・金属関連は、売上額 DI が直近1年間で最も改善し、資金繰り・採算 DI も大幅に改善した。年末にむけて高単価の受注が伸びている。

DI	10月	11月	前月比
売上額	▲ 1.1	1.4	2.5
採算	▲ 540	▲ 50.1	3.9
資金繰り	▲ 429	▲ 39.3	3.6
業況	▲ 34.8	▲ 35.1	▲ 0.3

＜建 設 業＞ 受注が好調であるも、原油・原材料費高の影響から利益の出ない建設業

建設業は、全 DI が小幅に改善し、売上額 DI はプラス水準となり、前年同月比2桁pt超の改善となった。公共、民間ともに安定した受注があり、資材の納品サイクルが改善され着工が進むなど、業界を取り巻く状況は上向きつつある。その一方で、資材や燃料の仕入価格上昇に対し価格転嫁が進まず、採算・資金繰り DI が低水準で推移し、利益の出ない経営状況に陥っている。

DI	10月	11月	前月比
売上額	▲ 1.4	3.3	4.7
採算	▲ 539	▲ 49.0	4.9
資金繰り	▲ 378	▲ 35.5	2.3
業況	▲ 33.2	▲ 30.8	2.4

＜小 売 業＞ 消費の冷え込みに採算性悪化と、深刻な状況にある小売業

小売業は、売上額 DI がわずかに悪化、採算・資金繰り DI が小幅に悪化、業況 DI が大幅に悪化した。特に採算・資金繰り DI は直近1年間で最も悪化した。円安による物価高が、消費の停滞に大きく影響し始めた。衣料品関連や耐久消費財関連は、全 DI が悪化した。消費順位が低い買回り品は、物価高が売上に影響している、とのコメントがあった。食料品関連は採算 DI が直近1年間で最も低い数値となった。小売業全体が物価高とコロナ第8波による消費の冷え込みで売上が低下し、さらにはコスト高の影響から採算性が悪化する深刻な状況である。

DI	10月	11月	前月比
売上額	▲ 124	▲ 138	▲ 1.4
採算	▲ 508	▲ 54.9	▲ 4.1
資金繰り	▲ 403	▲ 43.9	▲ 3.6
業況	▲ 38.7	▲ 44.2	▲ 5.5

＜サービス業＞ 旅館関連が全体を牽引するも、業種により効果が限定的であるサービス業

サービス業は、採算 DI がわずかに悪化に転じたが、売上額・業況 DI が直近1年間で最も改善した。旅館関連は業況 DI が小幅に改善し、全国旅行支援の実施などがサービス業全体を牽引している。その一方で、クリーニング関連は、全 DI が悪化した。物価高による消費の冷え込みや、コスト増で利益が確保できない、といったコメントが多い。理・美容は、前月から DI 値にほぼ変動がなく、比較的安定している。

DI	10月	11月	前月比
売上額	60	62	0.2
採算	▲ 262	▲ 26.9	▲ 0.7
資金繰り	▲ 21.4	▲ 21.5	▲ 0.1
業況	▲ 13.7	▲ 13.4	0.3

調査概要

・調査対象:全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点:2022 年 11 月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2022年12月期調査]**～年末需要から景況感は上向くも、採算性の改善に課題が残る小規模企業景況～****<産業全体> 年末需要から景況感は上向くも、採算性の改善に課題が残る小規模企業景況**

12月期の産業全体の業況は、全 DI が小幅に改善した。特に売上額 DI はプラス水準となり、直近1年で最も高い数値となった。クリスマス等の年末イベント需要の増加から、売上額 DI を中心に改善傾向の業種が多い。また、行動制限緩和が続いており、需要の停滞は脱しつつある。その一方で、全業種においてコスト高騰や人手不足が課題となっており、採算性の悪化から事業整理や、廃業という選択をした事業者もいる、とのコメントが見られた。

DI	11月	12月	前月比
売上額	▲ 0.7	25	32
採算	▲ 452	▲ 424	28
資金繰り	▲ 350	▲ 327	23
業況	▲ 308	▲ 27.7	3.1

<製 造 業> 売上額 DI が2期連続プラス水準も、業種により明暗の分かれる製造業

製造業は、2期連続で売上額 DI がプラスに推移し、採算・資金繰り DI がわずかに改善、業況 DI が小幅に改善した。食料品関連は、行動制限のない年末需要が後押し、全 DI が大幅に改善した。売上額 DI は6期連続で改善し続け、業界を牽引している。繊維関連は、水道光熱費や最低賃金引上げによるコスト増で採算 DI が大幅に悪化した。機械・金属関連は精密部品の入荷待ち等が影響し、全 DI が悪化に転じた。

DI	11月	12月	前月比
売上額	1.4	26	12
採算	▲ 50.1	▲ 49.3	08
資金繰り	▲ 39.3	▲ 37.9	1.4
業況	▲ 35.1	▲ 31.9	32

<建 設 業> 全 DI が2期連続で改善するも、人手不足から受注工事が進まない建設業

建設業は、全 DI が2期連続の改善であり、売上額・資金繰り・業況 DI は小幅に改善し、採算 DI が大幅に改善した。特に売上額 DI は2期連続プラス水準であり、除雪関連事業の増加や、宿泊施設の改修が後押しした。採算 DI に関しても、以前よりも価格転嫁が進んだことから、2期連続での改善となった。一方で、受注の好調な事業者において人手不足から追加受注の断念や、工期の延長が起きている。また、災害復旧工事等が年内で完了した事業者では、今後を不安視するコメントもあった。

DI	11月	12月	前月比
売上額	3.3	7.1	38
採算	▲ 490	▲ 40.7	8.3
資金繰り	▲ 35.5	▲ 30.8	4.7
業況	▲ 30.8	▲ 27.9	2.9

<小 売 業> 年末の需要から全業種で全 DI が改善するも、採算 DI が低水準で推移する小売業

小売業は、年末需要から全 DI が大幅に改善し、売上額・業況 DI は10ptに迫る改善となった。特に売上額 DI は直近1年で最も改善した。衣料品関連は、冬物衣料の需要がピークとなり、全 DI が大幅に改善し、売上額・業況 DI が10pt以上の改善となった。食料品関連は、年末イベント需要の増加から、全 DI が改善した。耐久消費財関連は、半導体不足が続くものの、需要が伸び、売上額 DI が大幅に改善した。

DI	11月	12月	前月比
売上額	▲ 13.8	▲ 5.2	8.6
採算	▲ 54.9	▲ 49.7	5.2
資金繰り	▲ 43.9	▲ 38.7	5.2
業況	▲ 44.2	▲ 36.1	8.1

<サービス業> 売上額 DI は好調を維持するも、コスト高騰から採算 DI が悪化するサービス業

サービス業は、全 DI が悪化に転じたものの、売上額 DI が3期連続でプラス水準であり、好調傾向が続いている。一方で、全業種を通じてコスト高騰から採算 DI が悪化している。旅館関連は、コロナ罹患や航空料金高騰による予約キャンセル等で一部客数が減少したものの、売上額・業況 DI はプラスの水準を維持。一方で、採算・資金繰り DI が大幅に悪化した。クリーニング関連は、コスト高騰に歯止めがきかず、採算 DI が低い。理・美容関連は、売上額 DI が小幅に悪化したものの、全体的に横ばいで推移している。

DI	11月	12月	前月比
売上額	6.2	5.5	▲ 0.7
採算	▲ 26.9	▲ 29.9	▲ 3.0
資金繰り	▲ 21.5	▲ 23.4	▲ 1.9
業況	▲ 13.4	▲ 14.7	▲ 1.3

調査概要

・調査対象:全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点:2022 年 12 月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2023年1月期調査]**～コスト高騰と物価高騰による消費者の節約志向から、苦境に立たされる小規模企業景況～****<産業全体> コスト高騰と物価高騰による消費者の節約志向から、苦境に立たされる小規模企業景況**

1月期の産業全体の業況は、年末年始のイベント需要が落ち着き、全 DI が大幅に悪化した。特に全業種で採算 DI が大幅に悪化しており、価格転嫁が追いつかず、コスト高騰が経営を圧迫している。また、物価高騰による消費者の節約志向の影響や、今後の見通しへの不安感と、後継者不足や代表者の高齢化とあいまって廃業を選ぶ事業者も多い、とのコメントがみられた。

DI	12月	1月	前月比
売上額	25	▲36	▲6.1
採算	▲424	▲505	▲8.1
資金繰り	▲327	▲37.7	▲5.0
業況	▲27.7	▲335	▲58

<製造業> エネルギー価格や原材料費等のコスト高騰から、採算 DI が圧迫される製造業

製造業は、採算 DI が大幅に悪化し、売上額・業況 DI が小幅に悪化した。燃料価格高騰による電気代等の値上げが採算 DI の悪化に繋がっている。食料品関連は、仕入価格やコスト高騰に価格転嫁が追いつかず、全 DI が大幅に悪化した。繊維関連は、資金繰り・業況 DI がわずかに改善し、売上額 DI が小幅に悪化した。機械・金属関連は、資金繰り DI が大幅に改善した。半導体不足が解消され始めたことや、輸出における円安の効果から改善傾向が見られた。

DI	12月	1月	前月比
売上額	26	▲04	▲30
採算	▲49.3	▲54.9	▲5.6
資金繰り	▲37.9	▲39.9	▲20
業況	▲31.9	▲34.8	▲29

<建設業> コスト高騰と人手不足から採算 DI の悪化に苦しむ建設業

建設業は、全 DI が大幅に悪化し、特に採算 DI は前期より2桁pt超悪化した。売上額 DI は前年同時期より改善しているが、採算 DI は同時期より悪化しており、コスト高騰が採算性を悪化させている。業界全体として、人手不足による工期延長が売上減少を招いていることや、人件費の底上げの影響もあり、経営改善の見込みが立たない状況に陥っている。

DI	12月	1月	前月比
売上額	7.1	▲05	▲76
採算	▲40.7	▲52.3	▲11.6
資金繰り	▲30.8	▲37.8	▲70
業況	▲27.9	▲35.5	▲76

<小売業> 消費者の節約志向から価格転嫁に踏み切れず、コスト高騰に苦しむ小売業

小売業は、全 DI が大幅に悪化し、採算・資金繰り DI ともに直近1年間の中で最も低い数値であった。物価高騰や電気・ガス代の高騰が消費者を節約志向にさせており、小規模事業者は価格転嫁がしにくい状況となっている。衣料品、食料品関連は全 DI が大幅に悪化、一部ではコロナウィルス感染症の落ち着きによる売上改善が見られるものの、コスト負担の増加に価格転嫁が追いついていない。耐久消費財関連は、採算 DI が大幅に悪化し、売上額・資金繰り DI が小幅に悪化した。

DI	12月	1月	前月比
売上額	▲52	▲126	▲74
採算	▲49.7	▲57.1	▲74
資金繰り	▲38.7	▲45.9	▲72
業況	▲36.1	▲43.1	▲70

<サービス業> 閑散期による売上減少に加え、コスト高騰に苦しむサービス業

サービス業は、売上額・採算・業況 DI が大幅に悪化し、資金繰り DI は小幅に悪化した。旅館関連は、売上額・業況 DI が大幅に悪化した。閑散期であることに加え、全国旅行支援の割引率の低下により、以前と比較すると、客数の増加が見込めない状況となっている。クリーニング関連は、コスト増加が止まらず、採算 DI が大幅に悪化し、廃業を考える事業者も多い、とのコメントがあった。理・美容関連は、採算・業況 DI が大幅に悪化し、特に採算 DI は2桁pt超の悪化となった。

DI	12月	1月	前月比
売上額	5.5	▲1.1	▲6.6
採算	▲29.9	▲37.5	▲7.6
資金繰り	▲23.4	▲27.1	▲3.7
業況	▲14.7	▲20.4	▲5.7

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2023年1月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2023年2月期調査]

～需要回復から明るい兆しが見えるも、採算の低調が続く小規模企業景況～

<産業全体>

2月期の産業全体の業況は、コロナウィルス感染症の流行も落ち着きがみられ、外国人観光客等も増え始めたことから、売上額・採算・業況 DI が小幅に改善し、全 DI で改善の傾向がみられた。旅行支援の効果や、今まで制限の多かった外食などもニーズが高まっている、とのコメントも見られた。しかし、依然としてエネルギー価格高騰等からのコスト圧迫の影響は続いており、採算 DI が低調に推移している。

DI	1 月	2 月	前月比
売上額	▲ 36	08	44
採算	▲ 50.5	▲ 45.7	4.8
資金繰り	▲ 37.7	▲ 35.9	1.8
業況	▲ 33.5	▲ 29.9	3.6

<製造業> 需要回復への見込みから受注が好調も、採算 DI が低迷する製造業

製造業は、売上額 DI が大幅に改善し、採算・業況 DI が小幅に改善した。物流や品不足が改善され始めたことから売上額 DI は改善したが、採算 DI は低調に推移している。食料品関連は、全 DI が改善し、特に売上額・採算 DI が大幅に改善した。旅館へ卸を行っている事業者にて売り上げが好調である、とのコメントがあった。繊維関連は、売上額 DI は大幅に改善し、採算 DI は小幅に改善した。夏物衣料の需要を見越した受注が増え、回復傾向にある。機械・金属関連は、売上額・業況 DI が小幅に改善した。

DI	1 月	2 月	前月比
売上額	▲ 0.4	4.9	5.3
採算	▲ 54.9	▲ 51.7	32
資金繰り	▲ 39.9	▲ 38.2	1.7
業況	▲ 34.8	▲ 32.1	2.7

<建設業> コスト高騰に係る価格転嫁への対応で、明暗が分かれる建設業

建設業は、全 DI が改善し、採算 DI は大幅に改善し、また業況 DI が 10pt 近い改善となった。年度末に向けた受注が好調であることから、売上額 DI がプラス水準となった。一方で、業界全体としてコスト高騰分を価格転嫁できているか、否かで業績の明暗が分かれ始めている。一部の事業者での価格転嫁に踏み切れない要因として、消費者や長年関係のある取引先へ与える負担が大きすぎる、とのコメントが見られた。

DI	1 月	2 月	前月比
売上額	▲ 0.5	3.9	4.4
採算	▲ 52.3	▲ 45.4	6.9
資金繰り	▲ 37.8	▲ 34.9	2.9
業況	▲ 35.5	▲ 25.7	9.8

<小売業> 需要回復の兆しから売上額 DI は上向くも、採算 DI が低水準で停滞する小売業

小売業は、採算 DI は大幅に改善し、売上額・資金繰り・業況 DI が小幅に改善した。衣料品関連は、採算・資金繰り・業況 DI は大幅に改善し、売上額 DI は小幅に改善した。季節の変わり目における衣料品需要や、価格転嫁が進んでいることなどが、全 DI の改善に繋がった。食料品関連は、売上額・採算・業況 DI が大幅に改善した。耐久消費財関連は、採算 DI が小幅に改善した一方で、物価高騰により単価の高い商品への買い控えが見られ、売上額・業況 DI が小幅に悪化した。

DI	1 月	2 月	前月比
売上額	▲ 12.6	▲ 9.6	3.0
採算	▲ 57.1	▲ 50.4	6.7
資金繰り	▲ 45.9	▲ 43.0	2.9
業況	▲ 43.1	▲ 39.9	3.2

<サービス業> 需要は高まるもコスト高騰の影響から、採算の改善までいかないサービス業

サービス業は、売上額 DI は大幅に改善しプラス水準となったが、業況 DI はわずかに悪化した。旅館関連は、国内外の観光客が増え続けており、売上額 DI は小幅に改善した。一部の事業者では旅行割の支援金が振り込みまで 1～2ヶ月程度かかるため、資金繰りに困っている、とのコメントがあった。クリーニング関連は、コスト高騰の影響から脱せず、業況 DI が大幅に悪化し、採算 DI は5期連続で悪化している。理・美容関連は、売上額・採算 DI が大幅に改善した。

DI	1 月	2 月	前月比
売上額	▲ 1.1	39	50
採算	▲ 37.5	▲ 35.4	21
資金繰り	▲ 27.1	▲ 27.6	▲ 0.5
業況	▲ 20.4	▲ 21.8	▲ 1.4

調査概要

・調査対象:全国約 300 商工会の経営指導員

・調査時点:2023 年2月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

小規模企業景気動向調査 [2023年3月期調査]

～人流増加により需要が活性化するも、コスト高騰で持ち直しの動きが鈍い小規模企業景況～

<産業全体>

3月期の産業全体の業況は、アフターコロナに向けた人流の増加から、全DIが改善し、2期連続の改善となった。マスク着用義務がなくなり、催し等が制限なく開催され始めたことや、インバウンド需要が景況感を上向かせた。一方で、需要が活性化していても、コスト高騰が採算を圧迫し続けており、コロナ禍で膨らんだ借入の返済や、人手不足の深刻化等、依然として小規模事業者を取り巻く環境は厳しく、持ち直しの動きは鈍い。

DI	2月	3月	前月比
売上額	08	61	53
採算	▲ 45.7	▲ 41.0	4.7
資金繰り	▲ 359	▲ 327	32
業況	▲ 299	▲ 233	66

<製造業> 2期連続で全DIが改善するも、コスト高騰により度重なる価格転嫁を迫られる製造業

製造業は、2期連続で全DIが改善し、売上額DIは2期連続のプラス水準となった。食料品関連は、全DIが改善し、採算・資金繰り・業況DIは大幅に改善した。需要回復から受注は伸び始めているが、コスト高騰が採算性を圧迫し続けており、価格転嫁交渉に難航する事業者も多いとのコメントが目立った。繊維関連は、全DIが大幅に改善し、特に売上額・業況DIは2桁ポイント改善した。機械・金属関連は、全DIが小幅に改善。売上額DIは3期連続プラス水準となった。

DI	2月	3月	前月比
売上額	49	104	55
採算	▲ 51.7	▲ 45.2	6.5
資金繰り	▲ 382	▲ 31.1	7.1
業況	▲ 32.1	▲ 24.3	7.8

<建設業> 人手不足による工期延長とコスト高から、資金繰りが悪化する建設業

建設業は、年度末の受注増加から売上額DIは小幅に改善し、2期連続のプラス水準となったが、資金繰りDIは小幅に悪化した。人手不足による工期の延長でより多くの人件費が発生し、更に受注から工事が完了し売上が入金するまでの期間も延びる傾向にあり、資金繰りが悪化する負のスパイラルに陥っている。資材やエネルギー価格高騰によるコストの増大と相まって、予断を許さない状況が続いている。

DI	2月	3月	前月比
売上額	39	64	25
採算	▲ 45.4	▲ 44.3	1.1
資金繰り	▲ 34.9	▲ 39.8	▲ 4.9
業況	▲ 25.7	▲ 25.0	0.7

<小売業> 物価高から消費者の購買意欲が高まりきらず、他業種との差が開き始めた小売業

小売業は、全DIが2期連続の改善となり、売上額・資金繰り・業況DIは大幅に改善。売上額・業況DIは直近1年で最も改善した。コロナ禍に比べると消費は高まりつつも、物価高からの買い控えも一部みられる中、コスト高騰もあり、思うように収益確保ができていない、とのコメントがあった。衣料品関連は、全DIが大幅に改善した。新型コロナウイルス感染症の5類入りが発表された1月頃からファッション需要が高まっている。食料品関連は、売上額・業況DIは小幅に改善したが、採算DIは小幅に悪化した。耐久消費財関連は、全DIが大幅に改善し、特に売上額・採算・業況DIが2桁ポイント改善した。

DI	2月	3月	前月比
売上額	▲ 9.6	▲ 2.1	7.5
採算	▲ 50.4	▲ 46.5	3.9
資金繰り	▲ 43.0	▲ 37.5	5.5
業況	▲ 39.9	▲ 31.2	8.7

<サービス業> コロナウイルス感染症の落ち着きから人流が増加し、活気を取り戻しつつあるサービス業

サービス業は、観光客の増加や、コロナ禍で中止していたイベントの再開により、全DIが大幅に改善。売上額DIは2期連続のプラス水準となった。旅館関連は、インバウンド需要が高まり、全DIが大幅に改善した。売上額DIは昨年8月期からプラス水準であり、今期は業況DIもプラス水準となった。クリーニング関連は、全DIが改善し、売上額・採算DIは大幅に改善した。理・美容関連は、卒業式や入学式に向けた需要から、売上額・採算・資金繰りDIは小幅に改善し、業況DIは大幅に改善した。

DI	2月	3月	前月比
売上額	39	95	56
採算	▲ 35.4	▲ 28.0	7.4
資金繰り	▲ 27.6	▲ 22.1	5.5
業況	▲ 21.8	▲ 12.5	9.3

調査概要

・調査対象:全国約300商工会の経営指導員

・調査時点:2023年3月末

・調査方法:対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。